



2017. 12

No.17

認定 NPO 法人 C.P.I 教育文化交流推進委員会

発行所: C.P.I. スリランカ事務所

Mahindarama Road, Etul-Kotte, Kotte, Sri Lanka

日本本部: 東京都三鷹市中原 2-16-9 Tel: 0422-49-3808

E-mail: cpimate@gmail.com

URL: <http://www.cpi-mate.gr.jp>ホームページ <http://www.cpi-mate.gr.jp> URL English <http://cpimate.com>

ダンスと歌、感動をありがとう！

来年の主宰地域
募集中です

東京・築地本願寺で、スリランカ伝統舞踊の夕べを開催

スリランカ伝統舞踊特別講演

C.P.I. 理事会は、本年はじめてから、スリランカにおける教育里子支援活動を広く知ってもらい、教育里親への参加を促したい活動の一環として、仏教を通じてスリランカと関係の深い築地本願寺に、行事協力を依頼してきた。その結果、同寺安永雄玄宗務長の認可を得て、本年6月19日に、チャンダシリ師（SNECC 事務局長）率いるスリランカ伝統舞踊団の公演が実現した。舞踊団の一行は、SNECC 舞踊教室で学ぶ4名のダンサーと、歌手を目指す少女1名である。中には、C.P.I. の現・里子や卒業生もあり、プロとしての活躍を目指している。協賛して戴いた築地本願寺から『ブディストホール』の使用提供を受け、大いに助けられました。6時開場にもかかわらず、5時頃から来場者がみえ、会場には本願寺の檀家さんや C.P.I. 会員、およびその知り合いの方たち約150人が集まった。



ライトアップされた築地本願寺の全容

小西会長から築地本願寺の協力に対する謝辞と、会場の皆さんへのC.P.I.の教育支援の説明がなされた（写真下）。

在日スリランカ大使館の特命全権大使 ダンミカ・ディサーナーヤカ氏からは、C.P.I.の教育支援に対する感謝の言葉があった（写真右）。



開演に先だち、上座部仏教の高僧であるチャンダシリ師が、会場に集まった皆さんの幸せを祈って読経された（写真右）。



開演前には、築地本願寺の安永宗務長（写真左）とチャンダシリ僧が、仏教交流について、親しく話す時間が持たれた。（右写真）

熱演の終盤、来日した全員による日本の歌の合唱が行われた。観客の方は、「素晴らしい踊りと歌で、現地に行ったように感動した」と絶賛していた。



閉演後、観客の方々が壇上に上がり、ニメーシュ君の指導でスリランカダンスの手ほどきを受けて、愉快的フィナーレとなった。
来年は、東京以外で主宰してもらいたいと思う。



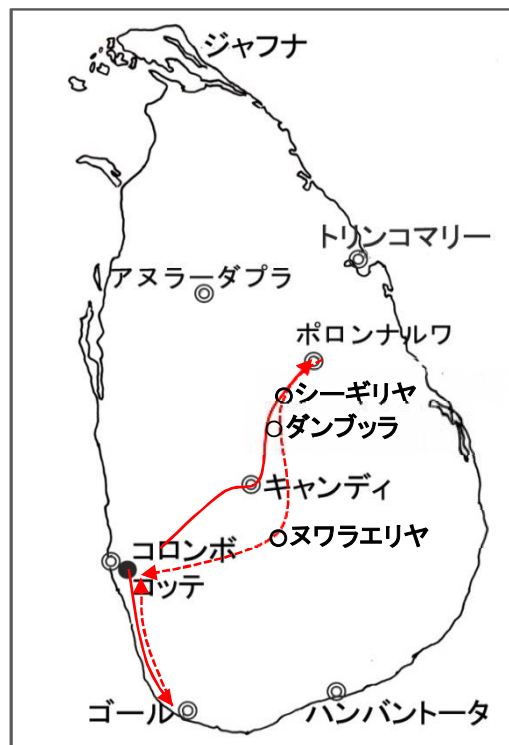
2017 スリランカ里子交流ツアー

迫力ある象の水浴びに感動

レポート：理事 牟田慎一郎

東京より5名、福岡より4名、計9名が参加し、8月22日から30日の9日間、スリランカを訪問した。そのうち5名は、初めてのスリランカだった。8月22日、羽田と福岡から飛び立った一行は、上海で14:35発の中国東方航空機に搭乗。同日、定刻より30分早い18:30にコロンボ空港に到着。空港では、ガイドの Udaraさんと、C.P.I.の協力組織であるスリランカ日本教育文化センター（SNECC）で働いている難波さんが、出迎えてくれた。空港で、それぞれ両替（¥10000→13800Rp）したあと、専用車でコッテのSNECC施設へ移動し、事務局長チャンダシリお坊さん歓迎を受けた。チャンダシリさんは、長年のC.P.I.と協働した社会活動が認められ、首都コッテの最高僧侶という高い地位を得られている。SNECCは、同じく国会から認証を受けたNGOとのこと。教育里親活動の価値を感じたことである。

夕食を御馳走になったあと、同敷地内にあるゲストハウスに宿泊し、翌23日、朝食後8時40分に専用車に乗り込み、キャンディへ向かった。途中、カシューナッツの店で買い物。女性の活動助成のため政府の肝いりで造られたこの村の歴史は長い。500gで1500Rp＝約1090円とお買い得だった。その後、ピンナワラの象の孤児院を見学した。象が水浴びに来るのを、触れるようなすぐそばで見ると、本当に迫力があつた。その後、Melsnaの紅茶の店で買い物をし、夕刻、最後の王朝があつた世界遺産の街キャンディに到着。



ピンナワラの象の孤児院で
水浴びに向かう象の群れ

まさか！まさかのハプニング

そこでお釈迦様の歯を奉ってある仏歯寺を訪問したのだが、ちょっとしたハプニングがあつた。一番若くして参加したKさんが、入場を拒否されたのである。ファッションで腿のあたりまで裂けたジーンズをはいていて、宗教上の理由で、そうなのである。

幸い着替えを持っていたので、普通のジーンズに着替えて事なきを得た。タンクトップや半ズボンは、駄目だと思っていたが、裂けたジーンズでも入場できないとは、なかなか厳しいなと思った。

キャンディを出て、夜遅くシギリヤのKassapa Lions Lock ホテルに到着。ホテルで夕食後就寝した。



キャンディの仏歯寺前にて



この服装でお寺
に入るのは、NG

シーギリヤの頂上へ！ 1200 段

24 日は、早めに起床し、7:45 ホテルを出てシギリヤロックに向かった。シギリヤロックは、椰子の林のなかに忽然とそびえたつ、高さ 200m の岩山で、5 世紀にカッサパ王によって建造された要塞跡があり、中腹には「シーギリヤレディ」と呼ばれる、女性のフレスコ画が描かれている。そのふもとには日本が寄贈した「シギリヤ博物館」があり、そこに「シーギリヤレディ」のレプリカがある。博物館を見学した後、約 1200 段の石段を約 1 時間 15 分かけてゆっくり登った。最高齢 M さんご夫妻も、元気で登頂。頂上の 360 度の眺めを楽しんだ。



シーギリヤレディ

シーギリヤ頂上からの 360 度の眺望



シギリヤロックを背景に



登頂記念

ポロンナルワで教育里子の家を訪問

サリーの店に寄ったあと昼食。

午後は、第二の王朝があった「ポロンナルワ」を見学。1017 年にシンハラ王朝が、アヌラダプラからここポロンナルワに遷都され 1255 年まで首都だったところで、パラークラマ・バーフ 1 世は、灌漑設備など国力増強に努め、仏教にも力を入れた。

お寺や仏塔、水浴場や台所、会議場や裁判所など数々の遺跡があり、当時の栄華を偲ぶことができる。世界遺産の巨大なパゴダも、ここにある。

夕刻、CPI の里子の家を訪問した。その里子は、父親を亡くし、母親の手で育てられていて、本当に生活が大変そうだったが、突然訪問した私たちを、家族みんな笑顔で応対してくれた。奨学生である教育里子の、素直でひたむきな姿に、目が潤んだ。



CPI の里子の家を訪問



ポロンナルワの大仏教遺跡

果物の宝庫 ジャックフルーツにマンゴスチン

ツアー4日目の25日は、午前中にダンブッラの石窟寺院を見学。天井に隙間なく描かれた仏像に感嘆した。絶え間なく落ち続ける水滴が穿つ石には、永遠の時を教えられた。スリランカの8月は、果物が豊富で、店先には、果物の女王といわれるマンゴスチンや人間の頭より大きいジャックフルーツなど、色とりどりの果物があり、行く先々でいろんな果物を賞味できた。



ダンブッラの石窟寺院



店先に並ぶ、色とりどりの果物



人の頭より大きいジャックフルーツ



マンゴスチン

冬みたいに寒いヌワラエリヤ

昼食後、ヌワラエリヤへ向かった。途中紅茶工場を見学し、紅茶の買い物をし、夕刻、標高 1868 mの標識があるヌワラエリヤに着いた。Galway Forest Lodge ホテルにチェックイン後、町を散策したが、コートが必要なほど肌寒かった。

郵便局は、おとぎの国を思い浮かばせるようなかわいい建物で、夜でも営業していて、切手や絵葉書を買って、記念の手紙を発信する人もいた。



まるでおとぎの国のような郵便局

特等席でペラヘラ祭を鑑賞

翌26日は、ホテルを8時過ぎに出発し、国道7号線を経由してコロンボへ戻った。コロンボでは、おみやげ物店の LAKSARA やスーパーマーケット ARPICO で買い物を楽しんだ。運よく、ガイドの Udara さんの家の近くで、ペラヘラ祭りがあるとのことで、通りに面したビル の2階のベランダからペラヘラ祭りを鑑賞できた。その前後に、Udara さん宅も訪問させていただき家族の方々と懇談した。この日は、コロンボの OZO ホテルへ泊まった。



ペラヘラ祭りを鑑賞

里子たちとの出会いに感動

27日（日）は、いよいよ里子に面会する日。10時頃にSNECCに着くと、すでに里子たちは、集まって私たちの到着を待っていた。ほとんどの子が家族の皆さんと一緒に来てくれていた。着くとそれぞれに花のレイを首にかけて歓迎してくれた。SNECCの職員の皆さんが日本語で通訳の手助けをして下さり、学校のこと家族のことなど、暫し懇談をした。私の場合は、教育里親を始めた当時の総勢5人の里子が来てくれて、感動ひとしおだった。



それぞれの現在の里子たちと記念写真（左端は、チャンダシリ事務局長）

日曜学校生徒が大歓迎

午後2時から、SNECCの日曜学校でダンスなどを学ぶ子どもたちや先生方によるパフォーマンスが繰り広げられた。みんなの上手さ、一生懸命さに拍手の連続だった。成績がよかった子の表彰も行われた。パフォーマンスは、夜の8時過ぎまで続いた。パフォーマンス鑑賞の後は、SNECCの食堂で夕食した後、ゲストハウスに泊まった。



日曜学校の生徒たちのパフォーマンス

世界遺産「ゴールの旧市街」を見学

翌28日は、Salendaさんのガイドで、9時頃SNECCを出て、途中バティックの店に寄り買い物をした後、南のゴールへ移動し、世界遺産「ゴールの旧市街と要塞」を見学。夕刻に海に棒をさして、それにまたがって漁をする「リティパンナ」と呼ばれる伝統的な漁法を見学。この日は、インド洋に面したThe Long Beach Resortに泊まった。



伝統的な漁法リティパンナ

楽しい思い出残し無事帰国。来年も心に残る交流ツアーを企画したい

29日、今日は、スリランカ最後の日。コロンボへ戻り、お寺を見学後、SNECCで休憩。午後5時ころ空港へ向かい、20:30発の飛行機で、上海空港トランジット、それぞれ成田と福岡へ飛び9日間の旅を無事終えた。

来年もまたここに残る旅を企画したいと思いますので、皆さんの参加をお待ちしています。

インドネシアの里子ツアーも企画したいところです。（牟田慎一郎記）

教育里子の国をもっと知ってみよう

★スリランカの基本情報



1948 年、イギリスから自治領（英連邦王国）のセイロンとして独立。1972 年にはスリランカ共和国に改称し、英連邦内の共和国となり、1978 年から現在の国名となった。島国で、現在もこの国が占める主たる島をセイロン島と呼ぶ。国名をスリランカに改称したシリマヴォ・バンダラナイケは世界初の女性首相です。世界の大きな変動の中でスリランカは少しずつ変わってきています。教育里子の国、スリランカの今をご紹介します。

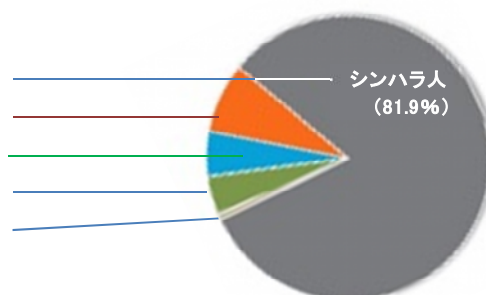
国名 スリランカ民主社会主義共和国 (Sri Lanka とは “光輝く島” の意)

首都 スリージャヤワルダナプラコーテ

面積 65,607 km² (北海道の約 80%)

人口 2120 万人 ※2016 年現在

民族
シンハラ人 (81.9%)
スリランカムーア人 (8.0%)
インドタミル人 (5.1%)
スリランカタミル人 (4.4%)
その他 (0.7%)



国旗 1948 年に制定され、それ以降少しずつディテールが加えられていたこの国旗は 15 世紀から 19 世紀にかけてセイロン島中央部に存在したキャンディ王国 (カンディ朝) の旗を基にしている。緑と橙色の帯は少数派であるイスラム教徒とヒンドゥー教のタミル人を意味し、4 枚の菩提樹の葉は多数派の仏教徒を意味している。

国歌 “母なるスリランカ” << YouTube で演奏が聴けます >>
<https://www.youtube.com/watch?v=JslPiA9mPls>

最大都市 コロンボ

宗教 仏教徒: 76.71%、イスラム教: 8.49%、ヒンズー教: 7.88%、キリスト教: 6.06%、
その他: 0.86%

言語 シンハラ語、タミル語

通貨 スリランカ・ルピー (LKR) 通貨単位はスリランカ・ルピー。

一般に Re.、または Rs. と略す。Rs.1 = 約 0.7 円

紙幣の種類は Rs.5000、2000、1000、500、200、

100、50、20、10、5、2

貨幣の種類は Rs.10、5、2、1、Cts.50、25

GDP 805 億ドル (世界 66 位) 日本: 49,360 億ドル (3 位)



スリランカ祝祭日 祝祭日の多くは太陰暦を基準としているため、年度によって日程が変わる。
 ポヤ・デーとは満月の日のことで、正式にはフルムーン・ポヤ・デーという。

2017 年祝祭日

1 月	1/14 タミル・タイ・ポンガル・デー 1/26 ムハンマド生誕祭(イスラム教徒の祭日)	1/12 ドゥルトゥ月のポヤ・デー
2 月	2/4 独立記念日 2/24 マハー・シワラトゥリ・デー(ヒンドゥー教徒の祭日)	2/10 ナワン月のポヤ・デー
3 月		3/12 メディン月のポヤ・デー
4 月	4/13 シンハラ人とタミル人の大晦日 4/14 シンハラ人とタミル人の新年 4/14 グッド・フライデー(キリスト教徒の祭日)	4/10 バク月のポヤ・デー
5 月	5/1 メーデー	5/10 ウェサック月のポヤ・デー 5/11 ウェサック月のポヤ・デー翌日祭
6 月	6/26 ラマダン明け(イスラム教徒の祭日)	6/8 ポソン月のポヤ・デー
7 月		7/8 エサラ月のポヤ・デー
8 月		8/7 ニキニ月のポヤ・デー
9 月	9/1 ハジ祭(メッカ巡礼祭/犠牲祭)	9/5 ビナラ月のポヤ・デー
10 月	10/18 ディーパワリ・フェスティバル・デー	10/5 ワプ月のポヤ・デー
11 月		11/3 イル月のポヤ・デー
12 月	12/1 ムハンマド生誕祭 12/25 クリスマス	12/3 ウンドゥワプ月のポヤ・デー

スリランカの気候

スリランカには四季というものはなく、年間を通して高温多湿な気候である。

6～11 月は雨季となり、山岳地帯や南西部では 12～3 月も雨が多い。

スリランカ（コロンボ）と東京の気温（℃）と降水量（mm）比較

